

リレーインタビュー

矢板の未来を紡ぐ

本経寺 (片岡・日蓮宗)
樋口惟亮 (のぶあき) さん



小学校のころからスポーツが好きで、サッカー、卓球、バスケットボールなど。競技によって筋肉の付き方が違ってくる。興味深く、一時は体育で、先生になりたかった。

前号の津久井さんが所属しているサッカーチームで一緒に活動していました。野球の父と一緒に活動していただきありがとうございました。

ですが、辛さが分らないと、楽しさ、うれしさが分らないのだと思うようになりまし

ていますが、今は、お寺での実際の仕事のほかに僧階(僧としての位)を上げるために週一回、講習を受けに東京の大学まで通っています。それとも一つ、僧侶にとって人と接することは絶対に必要なことだと思っています

はふるさとのイメージがその祭りだったものですか。...



通りの商店街というのがありました。いつも活気があって、毎日見ている光景でも飽きないんです。何かしら面白いことがあって、人がコミュニケーションをとっている。都会だから活気があるんだとあきらめないで、矢板でもそんな場所が作れないだろうかと思

■惟亮という名は：父、惟邦の一字をもらい、祖母がつけてくれました。改名してから修行に入る決まりなので、宗教名は「いりょう」といいます。

が決めろ」と言われました。父自身もお寺を継ぐのが嫌だったと聞きましたから、おそろく私に押しつけたのかなったのだらうと思

があり、参加してきました。自由のない、刑務所のような生活で、私などは甘ったれた生活をしていたので、毎日、その日一日を勤め

身が付いていない今の子が、正座することやお話を聞くことなど、最初はそんなところがらでいいのでお寺に来るといいう習慣がつけ

販売のアルバイトをしています。そこではひとつ心がけていることがあって、少しでもお客さまのことをわかっ

た。これは今までなかった光景だと思

少し裏道に入ったところに、陰のメイン通りを作って、フリーマーケットを開いたり、ボランティアで何かした



■祖母の一言で：私が進路を決めたのは、高校三年の受験が間近に迫った時でした。生まれてこのかた、跡を継げと私に言ったことのない父に、この時初めて、「将来どうする気なのか」と聞かれました。そして「お寺を継ぐのであればこの大学、継がないのならお前の人生だからお前

しかし、そのことで悩んでいた時、祖母に「このお寺を頼むよ」と言われ、おばあちゃん子だった私は、その一言で僧侶になることを決心し、立正大学へ進みま

この修行をすることで自分が変わったと肌で感じていきます。具体的に言つと、①お経が好きになったこと②檀家のことを考えるようになったこと③お寺のことを前向きに考えるようになったこと一など

いいなと思います。そのためには、お寺に来る事に二ノスかなければなりませんから、中学まで習っていた書道や、私の好きなスポーツを一緒に楽しんだりしながら我慢が身に付く方法を考えてみるといいのかもしれない

てあげるために、ささいなことでも、できるだけお尋ねするようにしています。このアルバイトを続けていくなかで、このお尋ねするということ、お客さまとコミュニケーションを取る上で一番大事な

するボランティア活動ですが、私にはミニ修行に思えます。ボランティアだから適当でもいいということではなく、ちょっと大変なことをやるからと、やっただあの達成感が生まれるのではないでしようか。

せっかく那須などの観光地が近くにあり、都会の人がこちらの方に来てくれるのだから、そんな面白い場ができるというのと思



■修行で自分が変わった

今年の四月・五月と身延山の久遠寺の近く、登竜門として誰もがやらなければならない日蓮宗の規定の修行で、信行道場(しんぎょうどうじょう)というの

今、辛さを我慢することで育つのではないかと思

■今課題は：この一、二年は修行と自立が私の課題で、まずは経験を積み、自信を持って仕事ができるよ

■裏通りに商店街なんかどうでしょう！東京の品川区で暮らしていましたが、近くに日本一長い商店街とい

た。これは今までなかった光景だと思

通りの商店街というのがありました。いつも活気があって、毎日見ている光景でも飽きないんです。何かしら面白いことがあって、人がコミュニケーションをとっている。都会だから活気があるんだとあきらめないで、矢板でもそんな場所が作れないだろうかと思

お前の人生だからお前

今年、辛さを我慢することで育つのではないかと思

■今課題は：この一、二年は修行と自立が私の課題で、まずは経験を積み、自信を持って仕事ができるよ

■裏通りに商店街なんかどうでしょう！東京の品川区で暮らしていましたが、近くに日本一長い商店街とい

た。これは今までなかった光景だと思

通りの商店街というのがありました。いつも活気があって、毎日見ている光景でも飽きないんです。何かしら面白いことがあって、人がコミュニケーションをとっている。都会だから活気があるんだとあきらめないで、矢板でもそんな場所が作れないだろうかと思

通りの商店街というのがありました。いつも活気があって、毎日見ている光景でも飽きないんです。何かしら面白いことがあって、人がコミュニケーションをとっている。都会だから活気があるんだとあきらめないで、矢板でもそんな場所が作れないだろうかと思